

## 職員による自己評価

## A環境面

全体的に段差などを少なくしていくことが必要。施設が使いづらい。

## B児童への支援内容

一人ひとりへの対応を個別支援計画に基づきながら進めているが、職員間でのもう少し深い話し合いと確認が必要。

## C関係機関との連携

区の自立支援協議会、子供部会には積極的に参加してきた。また、養護学校などの参観にも参加してきたが、子供によつての深い情報共有がもう少しできればよかった。

## D保護者への説明責任・信頼関係

何かあった時は、できるだけ早く丁寧に説明すりょうにしている。また、個別面談をとうしてお互いの理解を深めるように心がけている。

## E非常対応

全員が経験できるように避難訓練を行っている成果は見受けられた。

職員の動きのシュミレーションが不十分。

今より具体的なマニュアルが必要。

## 保護者による評価

## A環境

建物が古く、バリアフリーが充分とは言えない  
2階がもう少し明るいと良い

## B児童への支援内容

戸外活動を多く取り入れていることが良い。  
子供がいつも利用するのを楽しみにしている。  
一人ひとりの状況に応じて対応しているように思う。親が困っているときに励ましてもらえた。

## C事業所からの情報発信

連絡ノートやブログなどで子どもたちの活動を様子を知らることができる。

職員がどんな研修をしているか知りたい。

活動の予定がわかると良い。

## D非常対応

毎月の避難訓練の様子は知らせてもらっているが、実際の災害が起きたときの具体的な連絡体制などが十分に伝わっていない。

## 事業所内での分析

## 【共通点】

戸外での活動については、一定の評価があり、日常生活リズムを整えていく上では、これから先も続けていくことの大切さを実感した。

非常時の対応については、もう少しきめ細かく、また、わかりやすいものを作り提供していくことが大事

## 【相違点】

日常の様子を連絡ノートやブログなどで個々の様子を知らせることに重心をおいてきたが、全体の予定なども知りたいということになり、年度途中から月初めに月のお便りを発行することにした。

## 分析・検討してみても…

### 事業所の強み

- ・居場所事業から継続していることもあり、指導員もほとんど変わることなく、子どもたちの成長を見守ることができている。それに伴い、保護者の方との信頼関係も少し深まっていることも、この事業所を選択してもらえていると思う。
- ・戸外活動を中心に行っていることもあり、児童に対しての指導員の比率が高く、なるべく個々に対応できるようにしている。

### 事業所の改善点

- ・施設、設備面では、まだ工夫をして、使いやすくしていく必要がある。
- ・災害時のマニュアルは、再度内容を深く検討して、職員、ご利用保護者の方に、わかりやすく、安心できるものを考えていく必要がある。
- ・地域や、保護者の方への働きかけを、もう少し増やして、支援内容への理解を深めていくことが、大切である。

### 事業所の改善への取り組み

- ・子ども一人ひとりの支援を、充実していくために職員間での情報を共有し、統一した支援を深めていくように、話し合いの時間を増やし、充実させていく。
- ・災害時の具体的なマニュアルの内容を再度見直し、検討していく。それに伴い、避難訓練の内容も充実させていく。
- ・ご利用保護者間の情報を共有できるような場を設定していく。
- ・職員の研修を充実させて、支援を深め信頼関係を構築していく。

アンケートをとって、概ね今行っている活動、支援に理解をしていただけていることが少しわかりました。がまだまだ足りない部分もあり、また、一人ひとりのご利用者本人、ご家族の方にももっときちんと、共有して行かなければならない事があることも実感することができ、今以上に研修などを深めて、支援へとつなげていきたいと思いました。

事業所名 いっぱい

担当者 山崎五月